

新城市文化協会
ホームページは
▼こちら▼



新城文化

書 村田華城

編集・発行 新城市文化協会

◎ 「人の手で灯るもの」
教育長 安形 博 …………… P 2

◎ 令和七年度

・表彰者ご紹介
・各分野主催企画案内
・市民茶会報告 …………… P 3

◎ 県文連美術展の取り組み報告

・書道部
・美術協会
・写真クラブ …………… P 4

◎ 文化財めぐり（駿河路を訪ねて） …… P 5

◎ 活動の舞台を広げて

・日本武道館の大会に出演して
詩吟クラブ
・新城まちなかサロンでの狂言上演
新城狂言同行会
・祝百才の縁「書作二人展」
書道部（金子華石） …………… P 6

◎ 郷土作家「大阪圭吉」を伝えたい

奥三河ふるさとガイド 高田孝典 …… P 7

◎ 賛助会員名簿

ご協力ありがとうございました …… P 8



P 6・日本武道館の大会に出演して（参照）



デザイン切り絵 花田 幸三
（中日新聞12面1月4日「三河版」の
見出しのカットとして「カラー」紹介
されています）

人の手で灯るもの

新城市教育長

安形 博



「松江、寒い。」「松江、寒い。」「朝の連続テレビ小説に登場

するラファディオ・ハーンを演じるヘブン先生の言葉です。ラファディオ・ハーン（小泉八雲）が来日した明治二十三年の冬、日本列島は記録的な大寒波に襲われました。松江での暮らしは、彼にとって想像を超え、厳しさだったようです。それでも、日本の生活や伝統文化、自然、そして民話や怪談の世界を、彼は深く愛しました。

勤務先の島根県尋常中学校ではすべて英語、校外でも片言の日本語以外は英語で話す。そんな彼を演じるトミー・バストウ氏の流暢な英語は、ドラマの中でもひとときわ印象に残ります。

時おり、彼の英語が聞き取れないことがあります。画面には日本語字幕が映し出されるのですが、「今、英

語では何と言ったのだろう」と思う瞬間があります。そんな時に心強いのが生成AIです。タブレットを手元に置きながらテレビを見ます。

こんな場面がありました。焦ってしまった目玉焼きを見て、ヘブン先生がつぶやいた言葉が聞き取れませんでした。タブレットの画面には、「over cooked」の文字がすつと浮かび上がりました。「ああ、こう言うのか。」と疑問は解決していきます。AIが

文字情報を扱う力に優れていることは知っていましたが、今やリスニングにおいても相当な力を持っています。

目の前の外国の方が話した言葉が、瞬時に日本語へ変換されて私たちの耳に届く。海外で日本語を話せば、相手の耳には現地の言葉で伝わる。こんな光景が当たり前になる日が来るまでに、もう十年とかからないでしょう。日本の首相が、AIを活用して、他国の首相や大統領と、通訳を介さずに会話できる日も、すぐそこまで来ています。技術革新により、言葉の壁を乗り越えられる日が一刻一刻と近づいていることを実感しています。

先日、絵画の個展に足を運んだ時のことです。一枚の絵が、ふと心を

とらえました。

畳の部屋の中央に着物を仕立てる台が置かれ、その右手には紅色の着物。障子も窓も開け放たれ、遠く河山並みと、表庭に置かれたブランコと自転車やさしく視線を誘います。懐かしい空気が胸に広がり、しばらくその場を離れることができずにいると、幸運なことに、個展を開いている画家の方が声をかけてくださいました。

この作品は、東京に住むご夫婦からの依頼で描かれたものだといいます。都会での暮らしの中で心を痛めてしまった奥様が、幼いころを過ごした岐阜の山里の風景を「絵として再現してほしい」とご主人に願われたのだそうです。

画家は、ご主人から奥様の記憶を丁寧に聞き取り、庭にあった自転車とブランコが写る何十年も前のセピア色の写真を手がかりに、想像の翼を重ねながら制作を進めました。最初に描いた着物は紫色でしたが、「もっと明るく、心が開けていくような色に」と紅に塗り替えました。そして、部屋の中の描写はあえて簡素にすることで、奥様の視線が外へ向かうよう工夫したといえます。何度も描き直し、数年の歳月を経

て完成した一枚の絵。それはやがて、奥様の心を静かに癒やす「薬」になりました。

朝に目覚めるたび、夜に眠りにつく前、奥様はその絵を見つめ続けたそうです。

幼いころ、自転車に乗って、家の周りの田舎道を走り回ったことを思い出したのでしょか。柔らかな風に包まれながら、ブランコをゆつたりこいだ感覚を思い出したのでしょか。奥様の気持ちは、少しずつほだけ始め、その絵を見始めてから数か月が過ぎると、苦しまれた当時が嘘であったかのように、日に日に元気を取り戻されたというのです。

どれほど科学技術が進歩したとしても、できないことがあります。人が人の思いを受け止め、共感し、祈るように想いを巡らせ、創造の手を動かす。この営みは、どれほどAIが賢くなっても決して代わることはありません。

変化の絶えない時代だからこそ、技術革新が一層進むこれからの時代だからこそ、人にしかできないことを、大切に守り育てていきたいと思っています。

全国・東海・北規模の表彰者ご紹介
(7年1月～8年1月判明分)

☆美術
現展 会員賞 伊藤 香織
太平洋美術展

碧南市総合美術展 大賞 磯部 和久
日展 入選 杉浦 孝始

県文連美術展 工芸 入選 谷口 茂春
入選 宇佐美玲子

☆書道
日展 入選 村田 華泉
読売書法展 入選 渡辺貴代美

県文連美術展 書 入選 潤 玲鳳
入選 中嶋 和子

☆写真クラブ
写真 特選 小柳津一仁
奨励賞 近藤 偉冲
入選 長谷 節子

☆詩吟
全国吟詠コンクール 四位入賞 原田佐知子
中部地区予選一般二部

各分野(主催)の企画

状況により変更や中止の場合があります。
※のないものは無料です。

☆新城美術協会
スケッチ会 6月、7月 市内
小作品展 7月 コメダ珈琲新城

デッサン会※ 5月、8月、2月
春季展 3月 以上文化会館

☆デザイン切り絵作品展
10月16日(金)～11月15日(日)

(一部文化祭期間)文化会館休憩室
☆第37回春季新城書道展

3月27日(金)～29日(日)

文化会館展示室

☆新城写真クラブ作品展
年数回 文化会館休憩室、市民病院

☆詩吟クラブ不朽流
のぼりまつり 5月5日(火・祝)

翔峰会一吟会 7月26日(日)
観光ホテル

吟詠会創流100周年記念大会
9月6日(日)ロワジールホテル豊橋

一吟会 10月18日(日) JA愛知東
☆おここの会 桜結の会

第22回きらめきコンサート
7月20日(月・祝) 文化会館小ホール

☆琴伝流桜洲会
さくらまつり大正琴のしらべ

3月27日(金) 一宮生涯学習センター
☆琴伝流大正琴弦洲会

奥三河支部45周年記念大会
文化会館小ホール

☆ハラウフラオカブアノホマリーエ
発表会

4月26日(日) 文化会館大ホール

☆新城能楽協会
第35回新城新能(新城市主催)

8月22日(土) 文化会館
富永神社祭礼能 10月9日(金)

能装束・能面虫干し一般公開(能楽社)
10月18日(日) 本町公民館

☆新城吹奏楽団定期演奏会※
第10回 5月10日(日)

第11回 12月13日(日)
以上文化会館大ホール

サマーコンサート 8月

☆ほうらい紅太鼓
のぼりまつり 5月5日(火・祝)

もみじまつり 11月23日(月・祝)
子ども陣太鼓発表会

1月17日(日) 文化会館
☆きもの研究会
のぼりまつり姫・武将着付け

5月5日(火・祝)
打ち水大作戦 まちなみ情報センター
全国一斉無料きもの教室

秋の市民茶会

茶華友の会 坂野 延子

十一月二十三日、文化会館の和室にて、茶華友の会で行う「秋の市民茶会」が開催されました。

鳳来寺山の紅葉祭りの日でもあり、お忙しい事となり申し訳ありませんでした。

お席を持つ者としましては、コロナ以降色々気遣う事が多く有りましたが、最近では少しずつ戻っている様に思います。

お客様におかれましてもお初の方、年齢層の若い人、市外の方と嬉しい限りです。有難う御座いました。

茶席は十一月でしたので趣向を「開炉」とし、お茶事では新年の心遣いで道具組をし、室内での紅葉狩を楽しんでいただくことと次の様に考えました。

会 記

床 紅葉満山川

花入 備前

花 ははしばみ 椿

香盆 織部焼 はじき

炬縁 布摺面取七宝蒔絵

釜 面取釜

水壺 祥瑞

茶器 平棗 近海八景蒔絵

胴独楽筋(内無病)

茶約 紅葉狩

茶盃 黒染 赤染 紬裏金彩

蓋置 青竹

建木 菊割

お茶 又玄

菓子 著預 銘里山

以上

主な物

のみで省

略させて

いただきました

ました。

近海八

景は友の

会の研修

旅行で行



つた思い出の地です。

開炉の席にふ

さわしく、障子

も畳も新しい、

気持ちの良いお

部屋を使わせて

頂き有難う御座

いました。

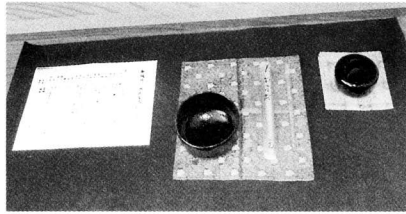
今後共宜しく

ご指導の程御願

い致します。

しつかり若い方に引継いで行きた

いと思ひます。



県美術展の取り組み報告

県文連美術展審査卒業雑感

副会長 金子 華石

本年度の県文連美術展は一月二十日(火)から二十五日(日)まで愛知県美術館で開催、当文協から書部門に中嶋和子さん、潤玲鳳さんが見事入選された。そして小生は審査員を仰せつかり十年(実行委員四年)、規程により今年度が最後のお勤めとなった。以下少々雑感を記したい。

コロナ禍の影響があったにせよ、近年の書部門への出品数の減少が目立つ。コロナ前は100点を超える力作が県内加盟文協から寄せられ審査も緊張の連続であった。この数年、出品数が徐々に減少、今年度は十年前のなんと五割を割ってしまった。各文協の出品数のばらつきも大きい。

原因は色々あると思うが、近年デジタルが普及し日本人が手で文字を書くことが減っていることも一つの原因だろう。年賀状も手書きが年々減っている。デジタルは便利ではあるが、時にはひと手間かけ手で文字を書く、また時には墨を磨って筆を持つことも残したい伝統文化の一つだと思う。日々の生活の中でアナログとデジタルの程よい共存関係はできないものかと考えるこの頃である。

県文連を観覧して

新城美術協会 山本 智恵

数年ぶりに愛知県美術館に足を運んだ。県文連の観覧のためである。今回は県文連五十周年の年という事で「文化協会相互の連携のもとに開催し、県美術文化の普及・振興と次代を担う新人の発掘」を目的とする展覧会で、日本画・洋画・工芸・彫刻・書・写真と明るく見やすい館内とスペースによって、各地域の皆様の日頃の自己啓発の賜ものと、見ごたえのある美術展だった。

県内各所の文協に於いても、新城市文化協会同様会員の高齢化に伴う減少の問題も少なくないと思われるが、新城からは絵画・写真など九名の出展があり、皆様の日常の思いや心象、作品に真摯に向き合った結果を感じ、多くの刺激を受けた。

へは一度も出展した事のない自分だが今年も出展も視野に入れ、研鑽を積み重ねたいと思う。

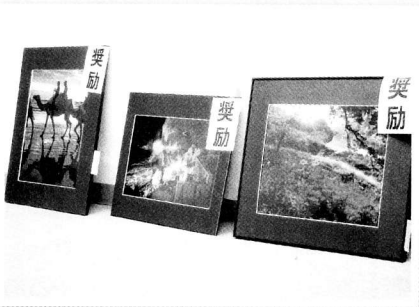


愛知県文連美術展

写真クラブ 近藤 偉沖

美術展が始まって五十年がたち、写真展が新しく加わりました。初めての審査に参加しましたが、審査会場が狭く審査員五名で、十五点を選びその中から上位七点が決まりました。新城市文化協会からは三

点の作品が出展されました。出展数は四十二点、大賞、議長賞、特選二点、奨励賞三点の七点が入賞に決まりました。新城からは、特選、奨励賞、入選、となりました。すばらしい入賞率でした。来年も写真部門が有るようでしたら多数の出展をお願いしたいと思います。



右は本会員・近藤偉沖氏作



右は本会員・小柳津一仁氏作



文化財めぐり 駿河路を訪ねて

会計 野澤 藤夫

今年度の文化財巡りは十一月二十六日（水）に静岡県牧之原市史料館と久能山東照宮の歴史と文化を訪ねる。

当日は快晴で小春日和の気持ちの良い日、富士山も行く先々で姿を見ることが出来、なんだか今日は楽しく過ごせそうな気がする。

○牧之原市史料館

今年のNHK大河ドラマ「べらぼう」でおなじみの田沼意次ゆかりの地である。この館は、田沼意次が築いた相良城本丸跡に建っている。歴史上意次は幕府の側用人や老中を務めたが賄賂や悪政で問題になった人物と学んだ記憶がある。この時代権勢を振ったが松平定信との確執により失脚、ここ相良城も建物から石垣



牧之原市史料館跡地と田沼意次像

まで撤去されてしまった。史料館は一階で相良藩主に関する品や資料が展示され牧之原市の基礎を築いた名君と高く評価されている。史料館担当者の説明を聴きながら、意次の商業重視政策の貨幣制度改革で造られた「南鐐二朱銀」を手渡されその重さにびっくりする。二階は「べらぼう」出演者のパネル、衣装などが陳列されている。ドラマに出演した渡辺謙、原田泰造両氏も来館したそうである。



牧之原市史料館説明風景

○久能山東照宮

あらかじめバス乗車中に参加者の一人である高田孝典氏（奥三河ふるさとガイド）から久能山東照宮について説明を受ける。徳川家康は没後に日光に葬られ、遺言により一年後に日光に移される。その後東照大権現として祀られる。日本三大東照宮は、日光、久能山、鳳来寺山でこれらの東照宮には位置関係において、意味があるそうだ。

久能山東照宮へは、日本平からロープウェイで約六分間、背後には冠



久能山東照宮 楼門

雪の富士山、眼下に駿河湾の煌めきを受け今日の天気感謝する。東照宮は石の階段が多く山の麓から登ると一五九段、因みに鳳来寺山は一四二五段という。高田氏にガイド役をお願いする。楼門を通過し最上段にある神廟までかなりの上りとなる。途中拝殿の軒下にある「逆さ葵」を探す。全体で四カ所あるそうだが二カ所しか発見できなかった。この「逆さ葵」には言い伝えがあるそうで、これにより建物をわざと未完とし更なる発展を願うものらしい。徳川家康の墓所は当所小さな祠が建てられていたが、三代將軍家光公により現在の規模になる。大権現様のパワーを頂けたら有り難い。



日本平 参加者全員（富士山バック）

○ふじのくに茶の都ミュージアム
静岡と言えばお茶が有名、全国の茶園面積の40%を占める日本一の茶どころという。ここは牧之原台地にあり体験型のお茶専門の博物館。この地は明治初期から開拓され江戸で活躍していた武士たちが入植し、広大な荒廃地を現在のお茶の一大生産地に育てあげた。こうした歴史や世界のお茶文化が紹介されている。慌ただしい毎日の生活の中でも、ゆっくりお茶の味を楽しむ時間が欲しいものだ。

日本武道館の大会に出演して

詩吟クラブ 平原 俊伍

コロナ禍の影響で長らく中止されていた日本武道館での全国大会が約七年ぶりに再開され、私たち不朽流翔峰会は、この「第55回全国吟剣詩舞道大会」に参加いたしました。大会は、四千人の入場者を迎え、規模も拡大され、盛大なものとなり、より広範囲の参加型イベントとして新たな形でのものでした。観客と出演者が一体となり共に楽しむ事ができる雰囲気生まれたのが今大会の特徴でした。

私たちの会は、以前の全国合吟コンクールでは女性が優勝、男性も七位入賞という輝かしい実績もありますが、今回はそのような経験を持つ人々も少なくなり、会員も減少の中で、新会員の方々と新たにこの日本武道館の大会に出演したいということになり、令和七年十一月十一日（火）に行われた、前述の大会に出演が決まりました。

吟題は、男性「大声」（作者 西郷南洲）参加者十七名、女性は「峨眉山月の歌」（作者 李白）参加者十五名、吟には舞が付くので、練習も宗家の指導で（毎回）特訓しました。

又、男性は全員袴着用ですので、その着付けの特訓も大変でした。大会前日リハーサルには五名参加

新幹線で出発、当日は高齢者も参加されていますので、全員揃って行くにはバスしかなく、（観光バスで）豊橋を早朝五時出発、新城からは六時出発の強行スケジュールで、日本武道館に午前十一時に到着、五時間の長旅でした。

出番は午後四時頃、会場は広く又階段が多く大変苦労をしました。大会の最後は不朽流宗家 大伊達不朽先生の「少壮吟士」による大合吟で午後六時終演でした。（出演も無事終了し）全国からの吟剣詩舞の素晴らしい吟と舞を鑑賞し、素晴らしい一日でした。

感動を胸に帰宅の途につきました。参加した方々も本当に良い経験をされたことと思います。これを糧にこれからも詩吟を楽しんで行きたいと思えます。

（P1・目次下の写真参照）

新城まちなかサロンでの 狂言上演

新城狂言同好会 会長 天野雅夫

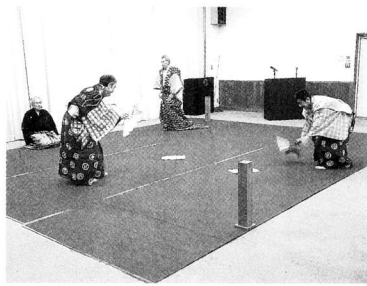
新城まちなかサロンの催しに招かれ、狂言の解説と上演をする機会を得ました。このまちなかサロンは中部地区の民生委員などが中心のボランティアグループ「ピンコロの会」主催による親睦会です。十一月九日

当日は一〇〇名程の参加者が商工会館に集い、私たちの狂言のほか入船

区の雅楽、中国楽器二胡の演奏を鑑賞されました。

狂言の魅力を多くの人に知ってもらう為に、前半で狂言の解説をし、そのあと狂言「文荷（ふみにない）」を上演しました。能舞台とは違い、息遣いまでわかる同じ目線での演技に「良く解って面白かった」とのお声もいただきました。

先人の残してくれた新城の狂言の文化を、今後も様々な機会を通じて伝えていきたいと思えます。



祝百才の縁「書作」一人展

副会長 金子華石

親友小笠原則彦君（市内門谷在住）の母波子さんが昨年六月お元気で満百歳を迎えられた。波子さんはかつて住んでいた豊橋で孫娘と一緒に浜野龍峰氏（豊橋市在住）に書を習っていた。小生と浜野氏は専門分野はまるで真反対のようだがなんとなく気が合って三十年来の書友。そんなご縁で小笠原君が管理人を勤める鳳

来寺山歴史文化考証館（愛称・観来館・みにこんかん）で波子さんの百歳を祝う「浜野龍峰・金子華石書作二人展」を昨年十月一か月間開催した。国際派書家浜野氏初の新城展ということもあり地元各紙が大きく取り上げてくれ多くのご来場をいただいた。会期中、当の浜野氏は殆ど書道普及（ボランティア）のためヨーロッパへ行っていたため、小生が仕事の合間を縫って連日会場へ出かけた。

会場中央に波子さんの屏風「朝日いま」を、残る壁面を二人で分けた。小生は昨年が長篠・設楽原の戦い四五〇年に因み、家康公座有銘「厭離穢土欣求浄土」、同遺訓「人の一生は」、仙千代君を悼む福沢諭吉翁詩「設楽原をまもる会の労作」「古戦場いるはかるた」（四十八首）の折り帖、芭蕉、牧水の地元ゆかりの作品など計九点を陳列させていただいた。

小生にとつては図らずも傘寿記念の小個展となり、奥三河鳳来寺の山奥で多くの温かい人情に触れ、濃密なあつと一か月のあつた。



右から浜野氏、小笠原氏、波子さん、金子。

新城が生んだ探偵作家

大阪圭吉を伝えたい

奥三河ふるさとガイド

高田 孝典

大阪圭吉——。と言われて何人が

分かるだろうか。大阪圭吉はペンネームで、本名は鈴木福太郎。明治四十五年三月二十日、新城町本町の旅館「鈴木屋（鉦屋分家）」に、父良平、母ことの長男として生まれた。

自由奔放の思春期を過ごし一時期画家を志したが、十八歳の時書いた探偵小説『人喰ひ風呂』が雑誌「日の出」の懸賞に入選したのを機に、探偵作家の道に没入することとなる。生涯師と仰ぐ探偵文壇の大御所、甲賀三郎の支えもあり、三十三年間の短い不運な人生の中で、約百五十編もの作品のほとんどをこの新城で書き上げたのである。



大阪圭吉・自宅書齋にて
(昭和11年頃)

とりわけ初期の作品は、江戸川乱歩が、「コナンドイルの正統を継ぐ」とまで絶賛したように、謎解きの手法技法は、どれをとつても綿密な調査に裏付けされた緻密なトリックを駆使した逸品の数々で、戦前の日本には数少ない本格派として「新青年」「ぶろふいる」等の雑誌に掲載され、周りから高く評価された。

圭吉は昭和十年、最愛の雅子と結婚、淑子、壮太郎、健次郎の三人の子宝に恵まれた。町役場にも奉職した郷土思いの好青年は、昼間は役場吏員として精励し、夜はひたすら探偵小説執筆に没頭する日々であった。幼馴染の友人達も多く居た。同じ本町の魚屋孫天（戦後乾物屋天星）の天野友一郎氏、千代田印刷・本田文一氏、西新町の歯科医・鳥居喜一氏、下町の和菓子店富久雀の遠藤佳司氏等とは皆同級で竹馬の友である。昭和十一年、圭吉二十四歳の時の処女出版『死の快走船』の頒布には、この畏友達が様々奔走したことが伺える。

また、三原屋薬局の大原紋三郎氏が、圭吉の想い出を懐かしく語ってくれたことを思いだす。「福ちゃん（本名福太郎の愛称）が来てね。豚を眠らせる良い葉は無いかね、って

言うんだよ。じゃあ、茴香はどうかなって教えたんだがね。」このヒントから代表作の一編『とむらひ機関車』が生まれたことは想像に難くない。皆さんに是非とも読んでいただきたい、一推しの傑作である。

しかし、昭和十二年七月に勃発した日華事変を境に軍部の圧力が次第に強まり、探偵小説は暗黒の時代に入る。江戸川乱歩は絶筆宣言し、横溝正史は捕物帳によれて息を繋いだ。圭吉も然り、昭和十二年の雑誌「改造」五月号に掲載された本格中編『坑鬼』の後には次第にユーモア小説、明朗小説、防諜小説などに筆を持ち替えていったのである。

そのような中でも創作意欲は豊潤であり、やむを得ず時局に迎合して作風を変えながらも、精一杯の足掻きをするのを止めなかった。昭和十七年、上京する直前に執筆した異色作『ここに家郷あり』は、豊橋同盟新聞に百十八回に渡り連載され、現在は蒲郡信用金庫新城支店になっている。当時佐々木医院の院長佐々木二一氏をモデルにして書かれた。そこには太平洋戦争に揺れ動く時局の中で、精一杯生き抜く古里の人々の暮らしを通して、真の豊かさとは何かを愛とペーソスを交えて訴えか

けている。大阪圭吉、いや鈴木福太郎のまちづくり論を彷彿とさせる。昭和十八年八月三日ついに応召、満州から激戦地フィリピンに転戦、昭和二十年七月二日、武運つたなくルソン島において戦病死…と戸籍簿にあるが、実態は詳らかでない。

それから戦後ずっと、圭吉の作品は全く世に忘れ去られることとなる。それを復活させたのが、推理作家として名高い鮎川哲也氏であった。氏は昭和四十七年以後幾度も鈴木家を訪れ、雅子未亡人と長男壮太郎氏から圭吉を幅広く取材し、『下りはつかり』等多くのアンソロジーに作品を編み入れた。圭吉復活の祖である。

また昨今、東京の盛林堂書房が精力的に未収録作品を復刻させていて、昨年七月には東京古書会館で、没後八十年記念の大阪圭吉展を開催した。今、再び圭吉の評価が高まっている。まだまだ語りたいたことが沢山あるが字数が迫った。市の図書館二階の郷土図書館の一角に、ひっそりと「大阪圭吉」コーナーがある。未だの方は是非お運びいただきたい。彼の心血を注いだ作品に触れて、新城が生んだ偉人としての事績を肌で感じてもらえたならば、心底嬉しい。

令和7年度 賛助会員 ご入会ありがとうございます

法人	個人 (市関係)	個人 (市議会議員)
(2口)	(株)中沢設計事務所	(1口) 松山 元晃
愛知東農業協同組合	(株)ごんだ	(1口) 柴田賢治郎
(株)ヨコタ印刷	(株)清月	カークランド陽子 小野田直美
本多プラス(株)	御菓子司 豊寿園	今泉 吉孝 山田 辰也
(有)鈴信組	(有)河口水道	小林 秀徳 村田 康助
光田屋(株)	(株)桜坂設計	竹下 修平 山口 洋一
崇桃牛寺代表役員 角田真理	(有)今泉紙店	佐宗 龍俊 鈴木 達雄
(株)田村組	(有)富建	鈴木 長良 中西 宏彰
松井建拓(株)	(株)杉生	山本 浩志 長屋 匡紀
瀧川オプラート(株)	(株)鈴木工務店	山口 貴司
(株)東雲座カンパニー	(医)星野病院	個人
茶華友の会	(株)スエヒロ産業	(3口) 渡辺亜希子
(1口)	ほうらいクリニック	(1口) 天野 雅夫
(宗)醫王寺	しんしろフィットクリニック	武川 裕江 請井 貴永
新昌寺	グリーンヒル	加藤 千明 金田 浩司
宗堅寺	川合歯科医院	武川 裕江 請井 貴永
大高精工(株)	ながしのクリニック	塩澤 宏樹 杉浦 達也
司法書士 佐野潤	(株)佐津川モールド	戸村 俊人 佐々木昌介
オーエスジー(株)	(株)イズ半	鈴木真理子 小柳津啓之
(医)一哉会 宮本医院	(株)ナツメテクノス	後藤 美紀 村田 方恵
(医)静巖堂医院	(有)フラワーショップあさおか	杉下 成利 服部 充伯
三州建設(株)	(株)あみや商事	権田 晃明 井上 博之
(有)阿部工務店	(有)仲東電装	牧野 幹予 篠宮 彰里
大海自動車(株)	(有)三京住宅	吉林 和久 田中 広治
早川工業(株)	(株)ケイミックスパブリックビジネス	牧野 賢二 加藤 正文
(有)坂巻銃砲火薬店		松下 領治 澤上 幸男
		瀬野尾充彰 山田 康司
		小林 利章 藤田 伸介
		井上 尚子 加藤 広樹
		杉山 陽治 原田 俊介
		杉本 晶子 安井 研二
		中山 恭成 湯浅 大司
		加藤久美子 大蔵 功幸
		伊與田吏美 菅野 裕也
		黒田 健二 山崎 幸司
		佐々木多津美 河口 昌和
		内藤 明美 中村 譲
		松山 京子 浅井 直樹
		安藤 映臣 阿部 和弘
		川窪 正典 松井 哲也
		貝崎 禎重 大橋 健二
		永田 美紀 林 弘一
		高柳とよ子 河合 秀明
		山本恵美子 亀甲 昌明
		松井 安子 金子 華石
		杉浦 妙子 野澤 藤夫
		伊奈 恵子 今泉 英三
		夏目 幸子 中山 秀文
		小田香代子 花田 幸三
		杉浦 能子 阿部 和子
		大谷みち子 高木 好子
		松井 節子 井土 宜紀
		筒井 康江 米谷 実紀

※法人 1口 5,000円 個人 1口 3,000円 順不同敬称略

編集後記

年も改まり令和八年となり、皆様も新たな年始を迎えられたと思います。が、当協会としてはまだ七年度の最終盤で、各分野の方々も年度最後の成果として発表展示に向け活動中のことと思えます。「新城文化」も年度最終号となり、活動のまとめ的な恒例の欄もあります。内容としては年々の発展を示す多くのお知らせができたと思えます。

巻頭(P2)には教育長安形先生に投稿いただき、AIへの対し方やまた気を付けるべき点を、身近なわかりやすい例をあげご示唆いただきました。

皆様もご熟読ください。(P3・4)では多くの会員の方々も本年度も活躍していただいた成果をご紹介できました。本年度は県文連も50周年という記念の年で、美術展に写真の部も加わりました。本会の写真クラブの活躍にもご注目ください。(P3下段)の文化祭の延長の行事でもある秋の市民茶会については、毎回執筆を担当されていた今泉会長さんの急なご逝去には私どもとしても全くとはいえない事でありましたが、坂野様に引き継ぎ報告をしていただけました。急な折とて大変なご足労いただいた会員の皆様には感謝申し上げます。(P6)には、三分野(詩吟・狂言・書)の方々、表現の舞台を広げ、そのための入念な準備やご苦心を紹介できました。(P5)の文化財めぐりも、昨年の大河ドラマの主要人物田沼家の領地跡、東照宮など歴史の深い駿河路を見学できました。(P7)では高田孝典氏に郷土出身の作家大阪圭吉氏の紹介をお願いしました。当時江戸川乱歩氏などと並び称された作家がこの新城で活躍されていたことを皆様にも知っていただきたいと思えます。

最後(P8)になりましたが、毎年賛助会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。(亀 甲)

新城市文化協会事務局

新城市字下川1の1
☎ 23-7656